

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料1

令和 年 月 日

協議会名: 千歳市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
北海道中央バス株式会社	・みどり台線 千歳駅～みどり台北2丁目	新千歳空港の利用者が増加していた(コロナ前)ことから、これと併せ、利用者の利便性向上と増加を目的とし、バス事業者と市民ニーズ等を踏まえながらダイヤの改正などの検討を行うとともに、バスの利用促進に努めている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 1. 4系統の収支率について 目標: 55.0% 実績: 44.0% 2. 利用人数について(市調査) ※1日あたりの利用者数 (1)桜木線 目標: 冬597人、夏469人 実績: 冬473人(R03.1月) 夏439人(R03.4月)	本系統については、収支率の改善が今後の課題であるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、他の路線も含め、利用者数、運送収入ともに大きく減少している。 引き続き、自治体とバス事業者とが連携し、各種改善に向け、市民に安心して利用してもらえるよう、また、さらなる利便性の向上、路線の効率化などに取り組んでいく。
北海道中央バス株式会社	・桜木線① 千歳駅～千歳駅(循環) ・桜木線② 千歳駅～千歳駅(循環) ※ショートカット型 ・桜木線③ 千歳駅～桜木5丁目	新千歳空港の利用者が増加していた(コロナ前)ことから、これと併せ、利用者の利便性向上と増加を目的とし、バス事業者と市民ニーズ等を踏まえながらダイヤの改正などの検討を行うとともに、バスの利用促進に努めている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C (2)みどり台線 目標: 冬375人、夏251人 実績: 冬254人(R03.1月) 夏228人(R03.4月) 令和元年10月から令和2年2月までは利用人数、運送収入ともに前年度と大きな差は無かったが、令和2年3月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が大きく減少したため、収支率が目標を下回っている。	本系統については、収支率の改善が今後の課題であるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、他の路線も含め、利用者数、運送収入ともに大きく減少している。 引き続き、自治体とバス事業者とが連携し、各種改善に向け、市民に安心して利用してもらえるよう、また、さらなる利便性の向上、路線の効率化などに取り組んでいく。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	千歳市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>千歳市は支笏洞爺国立公園に指定されている支笏湖を源とする千歳川の清冽な流れと自然が育む豊かな大地に恵まれ、札幌市や苫小牧市など4市4町に隣接しており、面積は594.50km<sup>2</sup>で、人口は97,807人(R3.12.1時点)となっている。路線バスの利用者は自家用車の普及等により昭和40年代をピークに減少傾向にあり、また、まちづくりに関する各種市民アンケートでは、路線バスに対する満足度は低い結果となっている。</p> <p>路線バスの利便性を向上させ交通ネットワークを充実させることは、まちづくりにとって重要な課題の一つであることから、平成27年度に地域公共交通網形成計画、平成28年度に地域公共交通再編実施計画を策定し、全市的なバス路線の再編を実施した。</p> <p>また、令和3年度には地域公共交通計画を策定したところであり、本計画に基づき利用者の利便性向上のための運賃制度の導入や各施策の実施など、バス事業者の収支改善に取り組んでいる。</p> <p>しかしながら、路線バスの利便性を向上させることは、財政的負担を伴うことにつながり、バス事業者や市の財政支援で賄うことが極めて困難な状況にあることから、国の地域公共交通確保維持改善事業を活用し、路線バスを基幹とする持続可能な交通ネットワークの構築と充実を図るものである。</p>

# 千歳市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

千歳市は支笏洞爺国立公園に指定されている支笏湖を源とする千歳川の清冽な流れと自然が育む豊かな大地に恵まれ、札幌市や苫小牧市など4市4町に隣接しており、面積は594.50km<sup>2</sup>で、人口は97,807人(R3.12.1時点)となっている。

路線バスの利用者は自家用車の普及等により昭和40年代をピークに減少傾向にあり、また、まちづくりに関する各種市民アンケートでは、路線バスに対する満足度は低い結果となっている。

路線バスの利便性を向上させ交通ネットワークを充実させることは、まちづくりにとって重要な課題の一つであることから、平成27年度に地域公共交通網形成計画、平成28年度に地域公共交通再編実施計画を策定し、全市的なバス路線の再編を実施した。

また、令和3年度には地域公共交通計画を策定したところであり、本計画に基づき利用者の利便性向上のための運賃制度の導入や各施策の実施など、バス事業者の収支改善に取り組んでいる。

しかしながら、路線バスの利便性を向上させることは、財政的負担を伴うことにつながり、バス事業者や市の財政支援で賄うことが極めて困難な状況にあることから、国の地域公共交通確保維持改善事業を活用し、路線バスを基幹とする持続可能な交通ネットワークの構築と充実を図るものである。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

令和3年度申請時における目標を以下のとおり設定した。

### ① 4系統の収支率

	令和3年度
	R2.10～R3.9
目標値	55.0%
実績値	44.0%

### ② 利用人数(市乗降調査) ※1日あたりの利用者数

	桜木線		みどり台線	
	目標	実績	目標	実績
冬	597人	473人	375人	254人
夏	469人	439人	251人	228人

## 令和3年度事業概要

【みどり台線】運行事業者：北海道中央バス株式会社

運行区間：千歳駅～みどり台北2丁目、運賃：千歳駅～みどり台北2丁目間 100円～280円

【桜木線】運行事業者：北海道中央バス株式会社

運行区間：以下のとおり、運賃：100円～280円(循環路線)

・桜木線① 千歳駅～千歳駅(循環)

・桜木線② 千歳駅～千歳駅(循環) ※ショートカット型

・桜木線③ 千歳駅～桜木5丁目

## 地域公共交通の現況

- ・JR千歳線(千歳駅、南千歳駅、新千歳空港駅、長都駅)
- ・路線バス(北海道中央バス、千歳相互観光バス、道南バス、あつまバス 16路線(内、地域間幹線系統2路線))
- ・東千歳定期貸切バス(市内1路線)
- ・長都、中長都、釜加地区デマンドバス(市内1路線)
- ・スクールバス(8路線)

## 協議会開催状況

令和3年6月30日 第1回協議会(書面)を開催

・協議事項：令和4年度千歳市地域内フィーダー系統確保維持計画(案)など

令和3年7月13日 第2回協議会を開催

・協議事項：千歳市地域公共交通計画(素案)、千歳市地域公共交通利便増進実施計画の概要

令和3年9月22日、10月6日 第3回協議会(書面)を開催

・協議事項：千歳市地域公共交通計画(素案)、千歳市地域公共交通利便増進実施計画(素案)など

令和3年11月29日 第4回協議会を開催

・協議事項：桜木長都線(実証運行)の結果と今後の運行方針、千歳市地域公共交通利便増進実施計画(案)

令和4年1月 第5回協議会(書面)を開催

・協議事項：地域公共交通確保維持改善事業の事業評価(案)など

令和4年2月 第6回協議会を開催(予定)

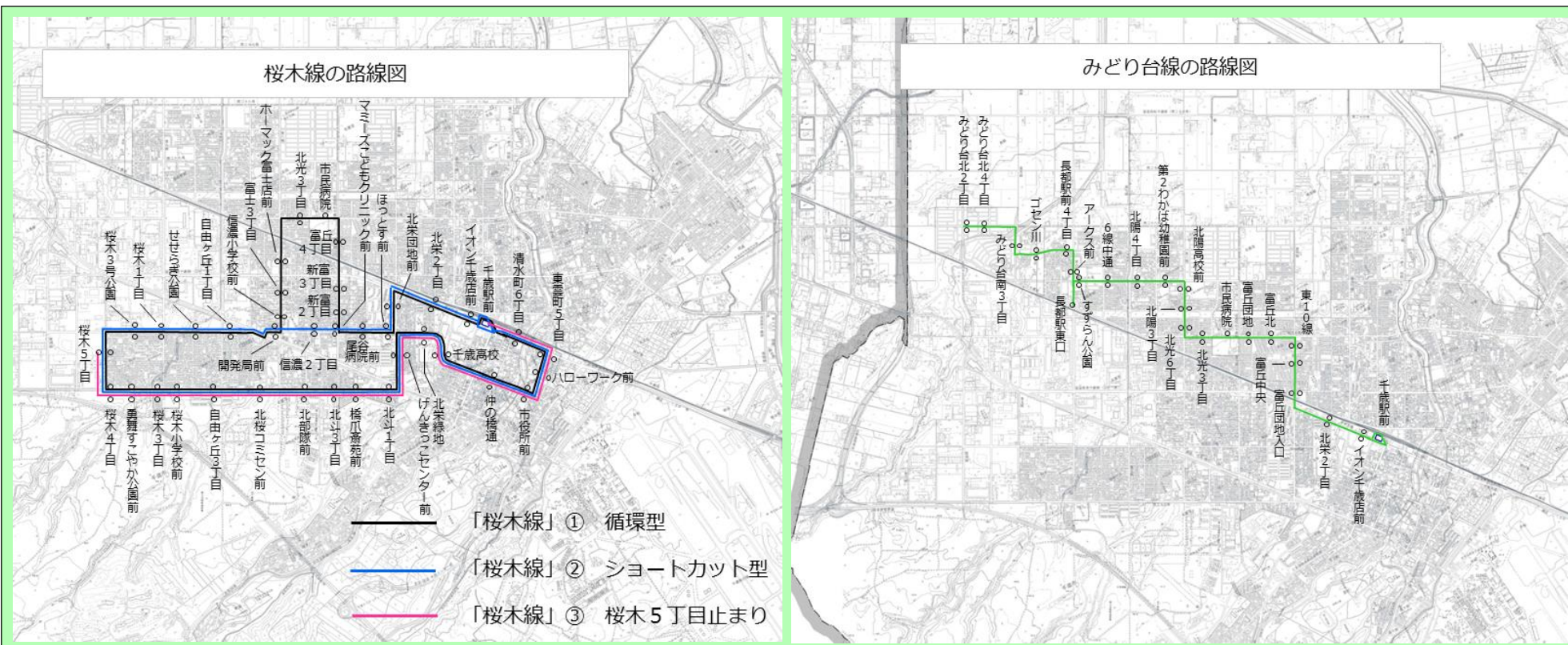
# 令和3年度事業の実施状況

## 1) プロセス、創意工夫

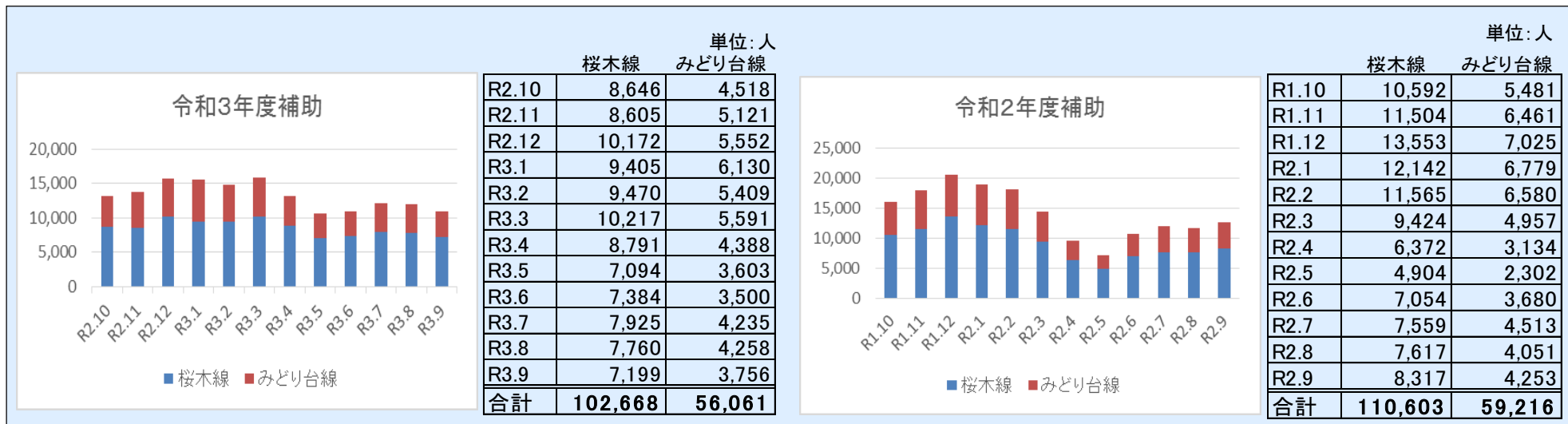
- ・市内高校生向けに地元出身のイラストレーターがデザインしたバス利用促進クリアファイルを作成したほか、バス車内の換気性能や抗ウイルス加工、消毒液の設置などの感染防止対策をPRするリーフレットを作成し全戸配布した(市民協働事業)。
- ・公立千歳科学技術大学と連携し、高齢者向け運賃表や新千歳空港国際線からバス乗降場への案内動画(YouTube)、バス車内用の外国人向け市内ホテル案内図を作成した。
- ・75歳以上の市民が利用できる「シルバーおでかけパス」と併せて使用することで、実質無料でバスに乗車できる補助券を配布し、外出機会の創出とバス利用の促進に努めた。

[R2.10~R3.9の状況]

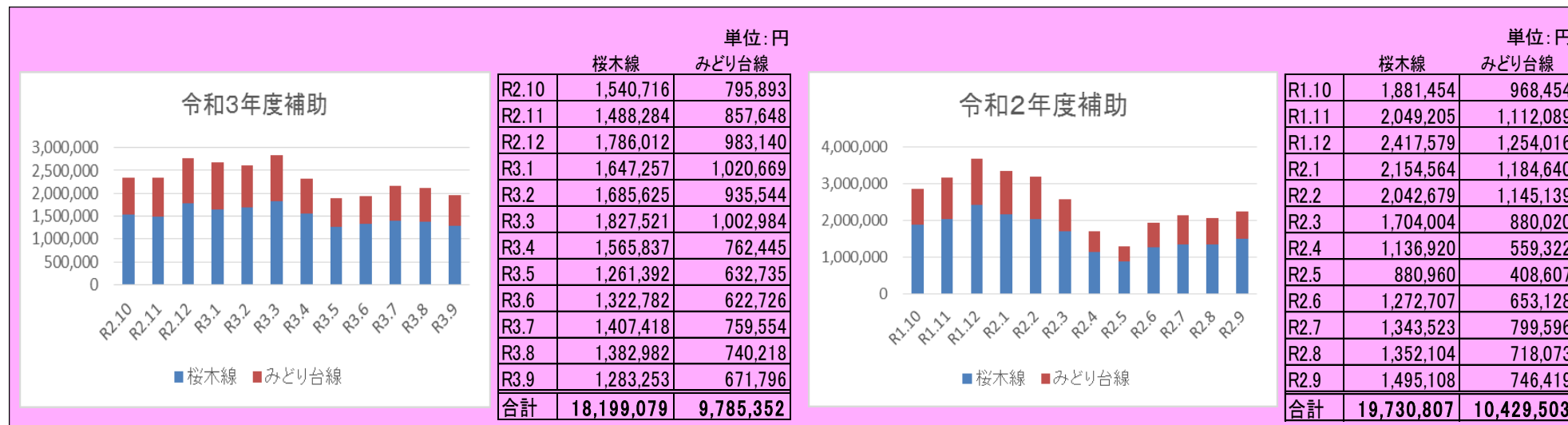
## 2) 運行系統



### 3) 利用実績



### 4) 収入実績(運送収入)



## 5) 事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

## 7) 事業の今後の改善点

本システムについては、収支率の改善が今後の課題であるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、他の路線も含め、利用者数、運送収入ともに大きく減少している。

引き続き、自治体とバス事業者とが連携し、利用者数、収益ともに改善に向け、市民が安心でき、さらなる利便性の向上や路線の効率化などに取り組んでいく。

## 6) 目標・効果達成状況

### 1. 4系統の収支率について

目標: 55.0% 実績: 44.0%

### 2. 利用人数について (市調査) ※1日あたりの利用者数

#### (1) 桜木線

目標: 冬597人、夏469人

実績: 冬473人(R03.1月)、夏439人(R03.4月)

#### (2) みどり台線

目標: 冬375人、夏251人

実績: 冬254人(R03.1月)、夏228人(R03.4月)

新型コロナウイルス感染症の影響が令和2年3月頃から出始め、利用者数、運送収入ともに前年と比較しても大きく減少したため、収支率が目標を下回っている。

## 8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄